



令和6年10月9日

お 知 ら せ

課名	産業労働部観光課 〔「森の芸術祭 晴れの国・岡山」 実行委員会事務局〕
担当・ 連絡先	山崎、山下（作品制作担当） 直通 080-1895-4575 森岡（広報担当） 内線 5285 直通 086-226-7843

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」× 岡山リベッツ
ジャコモ・ザガネッリ氏の作品「津山ピンポン広場」で
岡山リベッツの市民交流イベントを実施します

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」の参加アーティストであるジャコモ・ザガネッリ氏の作品「津山ピンポン広場」で、岡山リベッツの選手たちによる交流イベントを開催しますので、お知らせします。

本件に関しては、県政記者クラブ、津山市政記者クラブ及び新見記者クラブに同時にお知らせしています。

記

1 日 時

令和6年10月19日（土）

17:30～18:00～（1時間程度）

※津山総合体育館でのホームゲーム後に実施

2 会 場

城下スクエア（津山国際ホテル跡地）

（津山市山下98-2）

※雨天、強風等の場合は、津山総合体育館で開催

3 主 催

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会
株式会社岡山リベッツ

4 内 容

(1) 概要

卓球プロリーグ・Tリーグの岡山リベッツの津山市でのホームゲームに合わせて、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」でジャコモ・ザガネッリ氏が制作した「津山ピンポン広場」にて、岡山リベッツ所属のプロ選手たちと市民が卓球を通じて交流を深めるイベントを行う。

当日は、ジャコモ・ザガネッリ氏が参加し、作品に込められた思いについても紹介する。

津山ピンポン広場



(2) プログラム (予定)

- ①開会 (岡山リベッツ)
- ②森の芸術祭の紹介 (実行委員会事務局)
- ③「津山ピンポン広場」の紹介 (ジャコモ・ザガネッリ氏)
- ④卓球を通じた交流イベント (岡山リベッツ)

※プログラムは変更となる可能性があります

4 参加予定者

- (1) 森の芸術祭 晴れの国・岡山
ジャコモ・ザガネッリ氏、大倉佑亮チーフコーディネーター
- (2) 岡山リベッツ
及川瑞基選手、吉山僚一選手、吉山和希選手、田添響選手、白神宏佑監督

※参加者は変更となる可能性があります。

5 作品の概要

作品名：津山ピンポン広場 (Tsuyama Ping Pong Platz)

津山市の文化ゾーンの中心地にある城下スクエア (津山国際ホテル跡地) に、ジャコモ・ザガネッリ氏が市民の交流の場となる屋外卓球場をつくりました。

アーティストがデザインし、地元の職人と共同で製作した3台の卓球台と地元木材を加工したベンチは、和やかなコミュニケーションのためのプラットフォームとなっています。



ジャコモ・ザガネッリ 《津山ピンポン広場》2024
森の芸術祭 岡山
撮影：顧 剣亨 写真提供：JR西日本

【参考】

ジャコモ・ザガネッリ

1983年、イタリア生まれ。フィレンツェとベルリンを拠点に活動。地域コミュニティを対象とした芸術文化プロジェクトのアーティスト、キュレーター、および活動家。土地、環境、景観を通じて解釈される空間の概念の社会的及び公共的な側面をリサーチする。2010年には、空き地が提供する可能性について市民と行政の意識を高めるため、放棄された遺産をテーマにした先駆的な研究プロジェクト「La Mappa dell' Abbandono：見捨てられた場所の地図」を立ち上げた。2015年以来、台湾と日本で継続的に活動している。

近年の主な活動に、個展「Superficially」(2018 MOCA 台北)、「Grand Turismo」(2018・2019 フィレンツェ ウフィツィ美術館)がある。また、瀬戸内国際芸術祭(2019 日本)、タイランド・ビエンナーレ(2021 タイ)に参加した。



Photo: Silvia Piantini

岡山リベッツ (Okayama Rivets)

【チーム概要】

設立：2018年4月
ホームタウン：岡山県
チーム名の由来：

岡山の特産であるジーンズとポケットをつなぐ大切なパーツであるリベットのように、卓球と地元岡山との架け橋になるチームでありたいと考えています。

また、リベットは「人を引き付ける」という意味もあり、卓球を通じて日本だけでなく世界中で岡山に注目が集まるようなチームを目指します。

